

地域懇談会実施報告書

自治会名 相生町自治会

開催日 9月14日(金)

時間 19:00 ~ 20:30

開催場所 相生町公民館

参加人数 17人

懇談内容 別添 議事録

質問等後日回答を要するもの

農地への除雪時の碎石流入について

対応



行政側参加者 氏名

庶務課長 酒井 富雄

行政管理担当 飯島 秀美

記録者 飯島 秀美

相生町自治会地域懇談会議事録

(19:00開始)

1. 開会あいさつ 自治会長
2. 職員紹介
3. 市長あいさつ

(1) 地域懇談会の趣旨について

- ・ どの自治体も財政難により地域住民の要望に応えられないことが多くなっている。市民参加と協働による住み良いまちづくりのための意見交換の場として地域懇談会が必要である。
- ・ 地域における住民ニーズの選択、優先順位を市民合意により進めるためにも重要である。
- ・ 行政に任せきりでなく、行政と市民との意見のキャッチボールにより施策を決定するためにも、地域懇談会を決め細やかに開催していきたい。

(2) 9月議会の主な内容から

地域の活性化について

- ・ 産業の活性化 雇用確保、企業誘致、東洋紡の跡地利用
中小企業の技術力の把握、事業所アンケートの実施。
アンケート結果の要望により市道改良を補正予算に計上。
- ・ 観光の活性化 アルペンルートの入り込み伸び悩み 外国からの観光客増
紅葉シーズン「県民キャンペーン」の展開
- ・ 農業の活性化 品目的横断的経営安定対策による担い手、集落営農の育成

地域高規格道路(松本糸魚川連絡道路)について

中部縦貫道路の計画

波田ジャンクション～糸魚川間100km 高速道路に準ずる道路を建設。

生活道路の改良という観点で、堤防道路の立体交差化も促進。

大町病院の医師確保について

現在20人の常勤医師。内科医師5人のうち2人年内に退職意向。慰留中。

後任を探すため、信大医学部付属病院に依頼。

さらに当地域出身の医師に市長自ら直接依頼。

広域のゴミ処理施設について

現地説明会を引き続き開催、環境アセスメント実施の理解を要請。

(3) 第4次総合計画について(ダイジェスト版により説明)

計画の目的(公約の5本の柱を総合計画審議会において計画化したもの)

基本理念 将来像 目指すまちのテーマ「6本の柱」

(4) 5. 地域懇談会における要望、質問等内容は整理し、質問への回答は自治会へ

お返しする。さらに、意見・提言は大切にこれからの市政に活かしていく。

4. 懇談 【開始19:25】

出席者

合併以前のふるさと創生事業による補助金の使途と残金はどのようにになっているか。

市長

平成元年に地方交付税に一億円ずつ上乗せして全国市町村に交付されており、どの自治体でも地域振興のため支出し、補助金とは異なり、交付税制度の上で残金は無い。

・旧八坂村・・・温泉の掘削費用。

・旧美麻村・・・温泉の掘削・ぼかぼかランドの施設整備費用。

現在、旧大町市、旧八坂村、旧美麻村とも残金というものはない。その時点で市民のみなさんに解り易くお知らせするべきであったと思う。

出席者

そういう大事なことは広報で住民に知らせるべきである。

市長

財政状況については年2回広報に載せているが、市民の皆さんに知っていただくのはむずかしい。解り易く工夫する。

出席者

個人的な意見であるが、広報については現在月2回の発行、これを月1回にし、あとは回覧板での行政連絡のみでできないか。経費削減になる。

市長

他の地区でも同じ意見が出た。現在月2回発行でも、かなりの厚さになっている。世代によって必要な情報が違う。すべての人に必要な情報を網羅しなければならない。ただし、経費削減のため、情報を精査し絞る、紙質を落とすなど工夫してコストダウンを図るよう検討する。

出席者

実質公債費比率について

大町市は19市の中で一番高く、大北地区は比較的高い数字を示している。地方

分権が進んでいる中で、長野県は合併が遅れている。道州制の問題も出てくる可能性もある。広域の事業も増えてきている。その中で大北一帯の合併についても話題に乗ってきているが、市長の考えは、

市長

大町市の実質公債費比率は21.3%と19市の中で一番高い(20%を超えた市は3市)病院事業会計、下水道事業等に係る公債費を含めると高くなってしまふ。住民の要望に応え、施設整備を行うと高くなる。

合併については、財政規模・行政規模が一定以上にならないと行財政運営は難しい。自治体は一定の規模があって行政のノウハウが蓄積されてくる。住民サービスへマイナス要素が出てしまふ。行政主導の合併でなく、住民から合意形成による合併を目指すことが大事である。

道州制の動きは、日本を道州に分け、その下に市町村を置き民政を担うもの。道州の下で運営していくには、例えば今のままの大町市などの規模では小さい。そのためには合併への動きが強まる。基礎自治体の規模拡大を図る必要がある。

出席者

いずれにしても大北の母体は大町市である。これから避けては通れない課題である。

出席者

市役所では職員が笑顔でスムーズに対応してくれるようになった。ゴミ処理場建設問題も根気良く話し合いを進めてほしい。

市長

市役所は法を執行する厳正な場であるとともに、サービスを提供する場である。「まごころをラッピングしてサービスを提供しよう」と取り組んでいる。市役所・大町病院とも引き続き続けていきたい。

地域懇談会・市長への手紙・メール等気軽にご提言をお寄せいただきたい。いただいた内容については、まず指示すべきことがあれば指示し、担当課の作成した回答案に修正を加え、必ず私が目を通しお答えする。

ゴミ処理場問題については、白馬村の風景に憧れて移住してきた方々の感情は理解できるが、白馬村住民も観光客もだすゴミを適正に処理する。小谷村・白馬村・大町市の市村で処理するよりも一ヶ所で集中して処理するものである。白馬村に建設することが一番合理的であることから候補地として選定した。そうしたことを根気強く説明して理解してもらうよう努力する。

出席者

防災無線による一斉放送について、屋内では聞こえ辛い。九日町の大火の時も近所においても火災のあったことが分からなかった。豊科では個別受信機を配備している。大町市でも配備を検討してほしい。財政負担が大きくなるので、個人負担もやむを得ない。

市長

デジタル防災無線の配備は平成19・20年度事業で実施を計画している。屋外拡声器の取替え、公共施設・災害時の避難所等への屋内スピーカーの設置は市費で導入。個人宅内スピーカーの設置等は個人負担。機能によって差はあるものの基本的な機能で1台38,000円程度する。そのうち20,000円程度は市からの補助を予定している。アンテナへの補助も検討中。公共施設への配備と併せ、個人宅への補助制度整備を計画している。12月市議会には具体的な計画を提案し、新年度予算へ計上していく。

出席者

その件について、広報に掲載したのか。

市長

9月議会で提案したところである。10月以降の広報で詳細説明を予定している。屋外拡声器と屋外拡声器との中間地点は聞こえ辛い空白地帯がある。冬期は雪が吸音効果となり、特に九日町の火災の場合放送が聞こえづらかったと予想される。できるだけ多くの人に正確に情報が伝えられるように努力する。

出席者

デジタル化放送だと格段に性能が良くなり聞こえ易くなるのか。

市長

市役所に基地局を置き、鷹狩山に中継塔を建設し全市に発信する。デジタル波できれいな情報が的確に届くシステムとなる。音声は相当聞き取りやすくなると思われる。

出席者

防災無線の件は今年4月の広報に掲載済みであった。防災無線については住民の関心が高い。できるだけ情報を提供して欲しい。完成時期は平成20年度でよろしいか。

市長

平成 19 年度事業で大町地区・美麻地区を実施。20 年度事業で八坂地区を実施する予定。

出席者

個別受信機については、岡谷市で導入したものは1台1,000円程度だと聞いている。公共施設への配備よりも個別受信機の配備を優先してほしい。

市長

岡谷市ではデジタル方式ではないと聞いている。それではデジタル化したときに使用不可となる。より高度なシステムであるデジタル化した上で配備していきたい。できるだけ安価に購入しやすくなるように努力したい。

出席者

大町市ではラジオの電波が弱い、中継アンテナの整備をお願いしたい。

市長

長野市は電波が良く聞き取りやすかった。しかし伊那市は大町市と同様悪かった。ラジオも防災上役立つ情報を提供するもの。機会を捉えて放送局へ要望していく。

出席者

今年は暖冬で雪害はなかったが、高齢化が進み冬期間除雪が大変である。沿線の除雪の際、玄関前に雪を積み上げられてしまい、外に出られない。心配りのある除雪をお願いしたい。

市長

除雪に関しては建設課が業者に委託する際に、民家の邪魔にならないようお願いしているが、大きな機械で除雪するため路肩に雪が積み上げられてしまい、ご迷惑をお掛けする場合もでてくる。オペレーターへは気を配るようお願いするが、市民の皆さんも出来る範囲で一緒に片付けをお願いしたい。人手のないお宅にはご近所の助け合いもお願いしたい。

出席者

三日町に田がある。隣接する道路が舗装されておらずバラスを敷いてある。除雪の際に雪と一緒に道のバラスも田に入ってしまう。建設課にも要望し、田に隣接する道路は除雪しないようになっているが、除雪されバラスも一緒に入ってしまう。

市長

場所を確認し対応したい。(懇談会終了後、出席者に場所を確認し、建設課へ連絡した。)

出席者

中央商店街の活性化について、商店街の人々のやる気が感じられない、殿様商売では活性化は期待できない。商店街の方々と懇談会の折にでも後押しして欲しい。

市長

大規模店の便利さ(交通の便がよい、一回で用が足りる等)や買い物の形態の変化が要因である。中心商店街の利便性を考えてもらうようにする。

「他所にないものを工夫して出す。」「品揃えをよくする。」等を商店街のみなさんに訴えかけていきたい。

中心市街地をどのように活性化していくか、まちづくり会議で計画づくりをすることとしている。「まち」の担い手の主体的取り組み、行政の役割(バックアップ)、商店街をとりまく消費者の応援が必要であり、実践しやすい計画づくりをしている。

出席者

大町病院については、各所で話題にのぼっている。原点は患者・医師・看護師との信頼関係である。「市民のための病院」となるように、サービスの向上に努めてもらいたい。

市長

大町病院の問題については各地でご意見を頂く。昨年からは病院スタッフとの意見交換を重ねてきている。そばの人はそばの病院をよく言わない傾向があると聞く。「看護師の対応が悪い。」「薬の待ち時間が長い」等の苦情が寄せられている。患者さんにやさしく接し、和んでいただく。また診療について詳しく説明し、安心していただく。そのような取り組みを進めていきたい。直すべきところは直接、具体的に言っていただきたい。改善し、さらに病院の向上に努める。

出席者

以前協立病院へ入院した時、カルテの開示を行っていた。その日の治療、処方された薬等、すべて開示している。患者と看護師との信頼関係、意思の疎通を大事にしている。スタッフの充実が必要。ぜひ参考にして欲しい。

市長

病院はサービス業であり、心の通ったサービスを心掛けたい。他の病院の良いところも参考にしていく。協立病院は電子カルテ、オーダリングシステムが整備されているようだ。安曇病院でも電子カルテを導入したが、多額の費用がかかると聞いた。大町病院でもオーダリングシステムの導入を検討している。カルテ開示まで進めるかは解らないが努力していく。

出席者

市営住宅を一戸建てにし、長期間居住すれば払い下げを受けられるシステムにしたらどうか。定住するようになり人口増につながるのでは。

市長

公営住宅は長期間居住する場所ではなく、住む場所に困っている人に提供するものである。

出席者

まとめて造るのではなく、各所に市営住宅を一戸ずつ造成し建設するのはどうか。

市長

各所に散在していると管理が難しい。県でも住宅を集約する方向で進めており、効率的に管理する仕組みを考えていかなければならない。そのためには一戸建てではなく3階建て以上の集合住宅形式が主流となる。ただ一戸建ての良さ、払い下げのシステムについては頭に入れておきたいと思う。

5. 閉会のあいさつ 自治会長

【20:30 終了】